

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTを有効に活用することができた。そのことにより授業に余裕ができ、話し合い活動や問題演習に充てることができた。
- ・説明の仕方を工夫することで生徒の理解が深まる。単語数を絞り、図やイラストを提示した上でノートに記録を残すようにし、文や口頭説明を減らす指導により、落ち着いた授業展開ができた。

(2) 課題

- ・授業中問題演習に取り組む姿勢ができている一方、家庭学習の習慣が身に付いていない。時間を区切って活動させることで、時間内で終わらなかった問題を作り、家庭学習への意欲を高める必要がある。
- ・結果から考察を書くことを苦手とする生徒が多く、実験と振り返りの授業が繋がらないことがある。定型のワークシートを2時間続きで使用するなどし、学習の繋がりを意識させる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	教科の正答率では、区の平均よりも0.5ポイント高く、全国平均よりも4.2ポイント低い結果となった。てこのはたらきと電気の利用の問題では区や全国を超えた。		
第2学年	教科の正答率では、区平均よりも1.9ポイント高く、全国平均よりも2.2ポイント低い結果となった。身のまわりの物質、その性質と物質の状態変化、音の性質と地震の問題では区や全国を超えた。	全体に、区の正答率よりも下回っており、昨年度の校内平均よりは上回っている。特に、活用の問題の正答率が低い結果となった。	
第3学年	教科の正答率では、区平均よりも2.0ポイント、全国平均よりも5.0ポイント低かったが、エネルギー領域だけは区や全国を超えた。	昨年度は区の正答率よりも6ポイント下回っていたが、今年度は大幅に向上がみられ、全体としては区の正答率を上回ることができた。	全体としては、区の正答率よりも6ポイント下回っており、昨年度の校内平均に比べても大きく下回っている。特に、活用の問題の正答率が低くなっている。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均よりも0.3ポイント高く、全国平均よりも6.1ポイント低い結果となった。	区の平均よりも1.0ポイント高く、全国平均よりも2.2ポイント低い結果となった。	区の平均よりも2.4ポイント高く、全国平均よりも1.5ポイント低い結果となった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均よりも2.1ポイント高く、全国平均よりも3.5ポイント低い結果となった。	区の平均よりも1.9ポイント高く、全国平均よりも0.5ポイント低い結果となった。	区の平均よりも1.0ポイント高く、全国平均よりも1.0ポイント高い結果となった。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値や区平均よりも、大幅に下回る結果となった。	目標値や区平均よりもやや下回る結果となった。	全国平均や区平均を超えた。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークや単元テストを多く取り入れて、個々の知識・技能の向上できる点を明確にして、基礎的学習能力の向上を図っていく。	観察や実験において、教員の説明を少なくし、自ら実験方法やまとめ方等も生徒に考えさせる場面を多く取り入れていく。	自ら進んで学習する姿勢を育てていくために、ノートづくりやレポートの共有を行って、主体的に取り組む態度を育てていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワークや単元テストを多く取り入れて、個々の知識・技能の向上できる点を明確にして、知識・技能と基礎力の向上を図っていく。	観察や実験において、教員の説明を少なくし、自ら実験方法やまとめ方等も生徒に考えさせる場面を多く取り入れていく。	自ら進んで学習する姿勢を育てていくために、ノートづくりやレポートの共有を行って、主体的に取り組む態度を育てていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識や技能を定着させるため、小テストや実験の機会を繰り返し、増やしていく。	言語能力や計算能力の低さが根本と思われる。これらを前提に根気よく学習指導にあたる。	苦手意識をもたないように、身近で興味や関心を持ちそうな話題を取り入れながら授業を实践する。ノートづくりに力を入れさせることをこれからも継続する。